

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 6 月 21 日 11:34 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,600～40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 36,000～39,600 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～18,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～161.350 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.350

エリオット波動とは

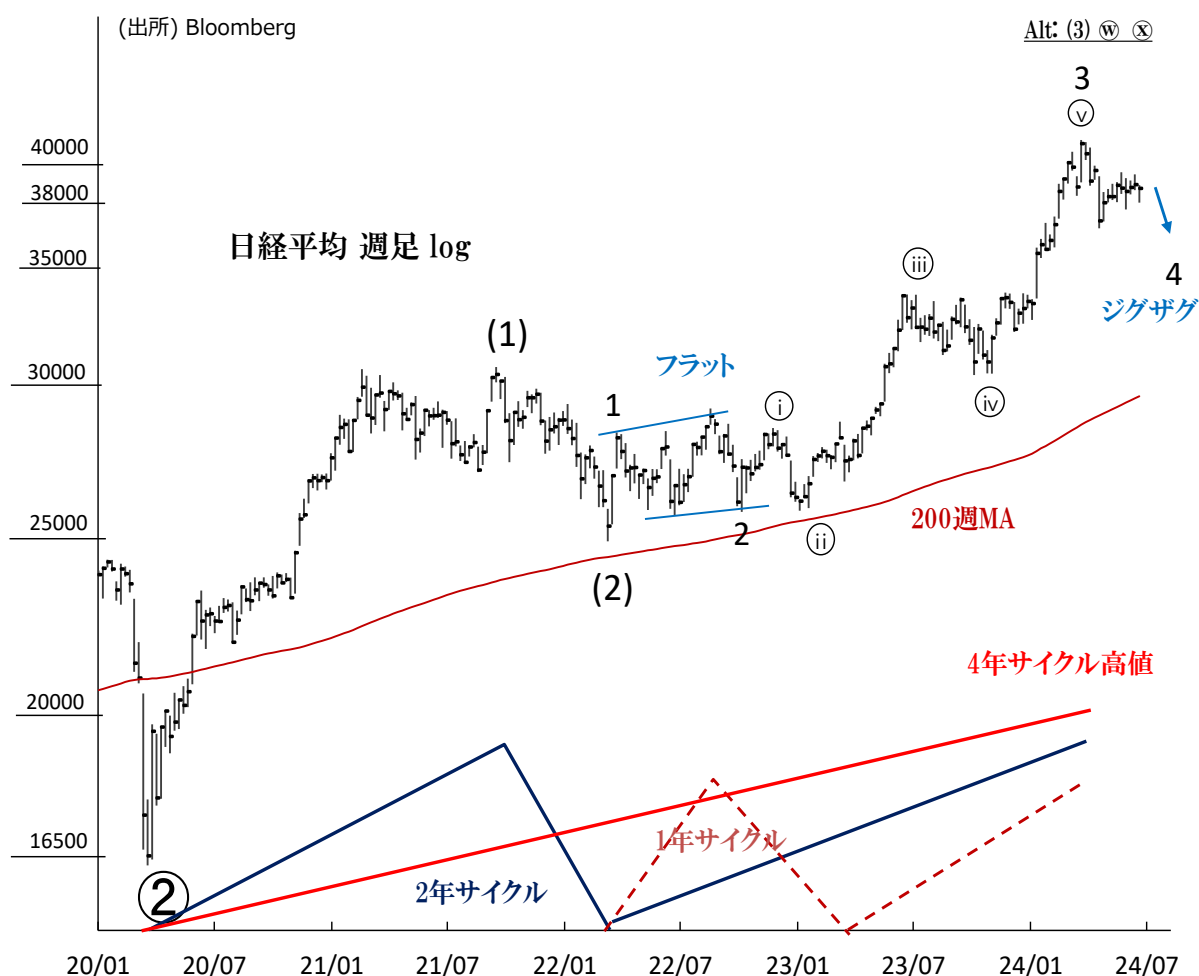
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足・エリオット波動分析】

41,087 円(3/22 高値)から[(ダブル)ジグザグ]による調整が進行中とみられます。その波動の位置付けとしては、インターミディエイト級第(3)波におけるマイナー級第 4 波、あるいはインターミディエイト級の第 (4) 波と思われます。

TOPIX、コア 30 など他チャートと照らし合わせ相互に検討した結果、「マイナー級第 4 波による調整」という見方を優先的に採用します(もちろん今後の展開次第で適宜、カウントを見直していきます)。

今は 4 年サイクル底へ向けた下げであり、底打ち時期は 7 月～11 月※とみています。

※4 年サイクル(48 カ月)の伸びしろ(オーブ)は 8 カ月(48 カ月の六分の一)です。20 年 3 月から 4 年 8 カ月が経過する時点が今年 11 月です。



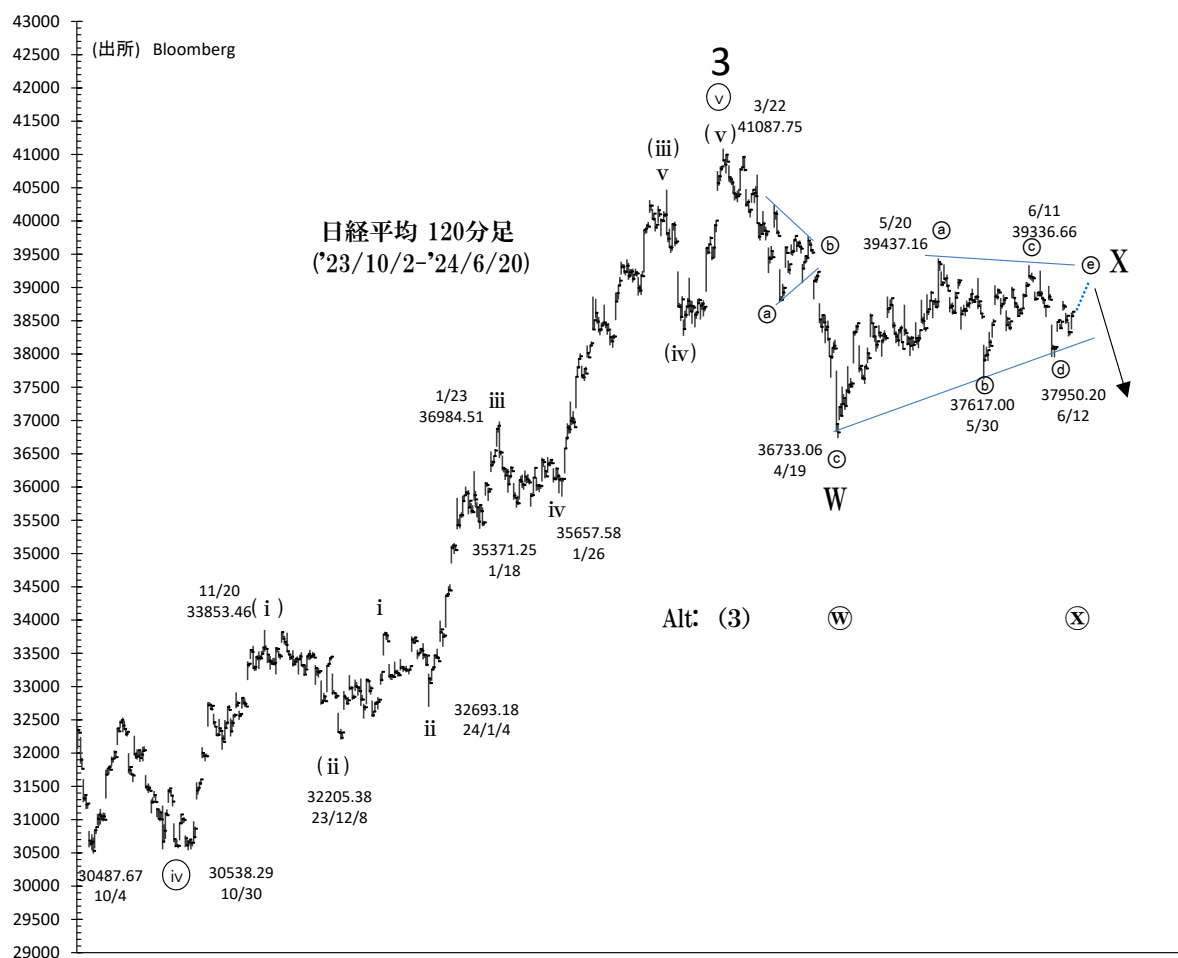
【日経平均 日足・エリオット波動分析】

3 月高値からの急落(ジグザグ・W 波)は 100 日 MA にサポートを受け、36,733 円(4/19 安値)からリバウンドとなっていました。後述しますが、このリバウンド(X 波)はトライアングルを形成中とみられます。

X 波・トライアングルは、今後数日内にも完成し、その後は Y 波による下落が続くでしょう。この Y 波により日経平均は、200 日 MA※へ下押す可能性があります。

※100 日 MA…38,606 円

200 日 MA…35,757 円 (ともに 6/20 大引け時点)



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

3 月高値からの下げは、[ダブル・ジグザグ](W-X-Y)編成とみられます。

W 波[ジグザグ]…41,087 円(3/22 高値)→36,733 円(4/19 安値)

X 波[トライアングル]…36,733 円(4/19 安値)→?円

X 波・トライアングルは㊟～㊞波から成り立ち、37,950 円(6/12 安値)からは㊞波による上昇とみられます。**㊞波の想定レンジは 38,800 円～39,000 円**です。

㊞波を以て X 波は完成し、そこからは再び[ジグザグ]による Y 波の下げが想定されます。**37,950 円を下抜くと Y 波開始のシグナルが点灯**します。

なお㊞波が 39,336 円(6/11 高値)を上抜くことはないはずです。

この見通しと異なり、39,336 円を上抜くようだとトライアングル説は否定されます。この場合は別の見方が必要になります。

NY ダウ



【NY ダウ日足・エリオット波動分析】

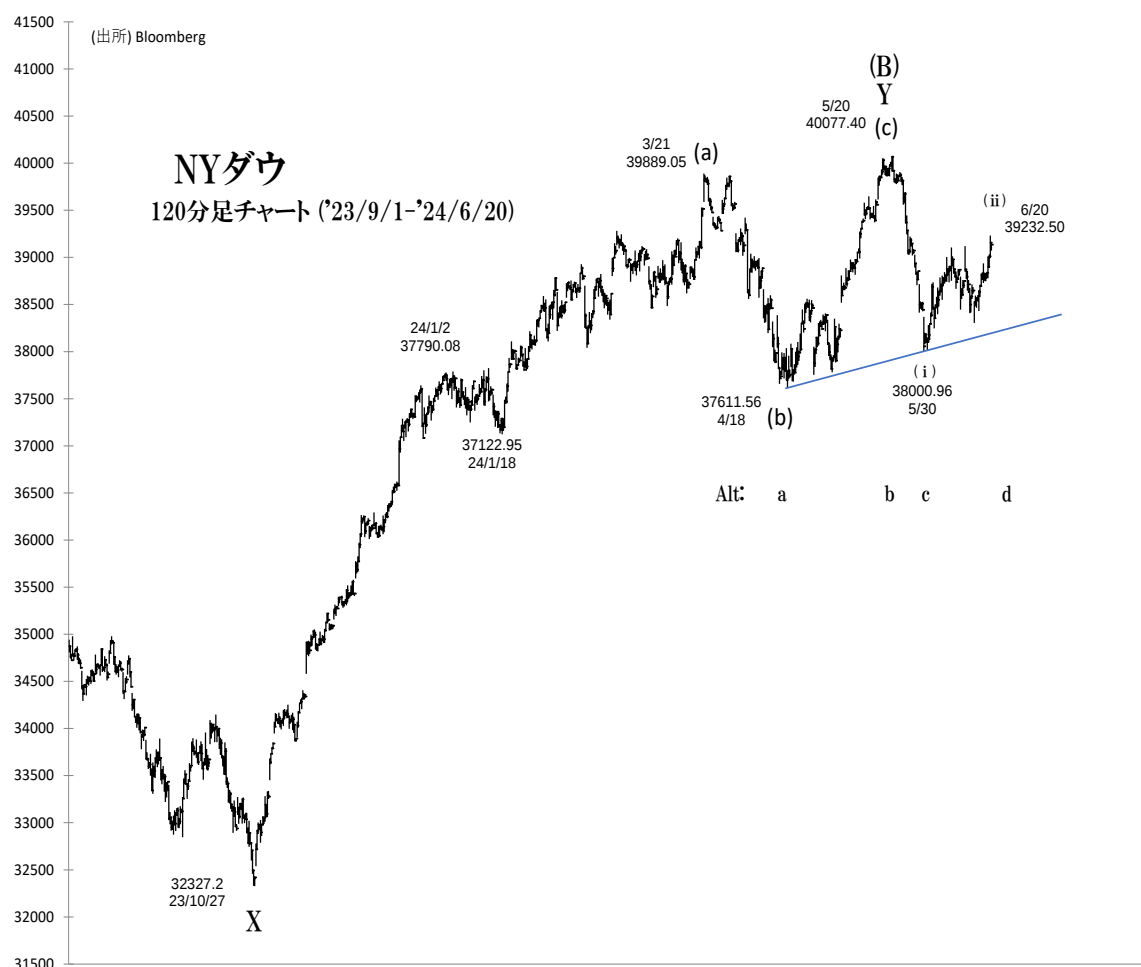
NY ダウは 22 年 1 月高値(36,952 ドル)から、プライマリー級④波を展開中とみています。22 年 10 月からの上昇は④波における(B)波であり、それは「不規則天井(イレギュラー・トップ)」です。(B)波の後に続く(C)波の下落スケールは、(A)波の下落(22 年 1 月～22 年 10 月)に匹敵するか、あるいは、より大きなものになるでしょう。

22 年 10 月安値(28,660 ドル)を起点とする④波中(B)波の上昇は、ダブル・ジグザグ[W-X-Y]。そのうち、23 年 10 月安値(32,327 ドル)からの上昇は Y 波ジグザグ[(a)-(b)-(c)]です。

そして、この Y 波は 40,077 ドル(5/20 高値)で天井を打ち、④-(C)波による下落が始まったかもしれません。この見方は 37,611 ドル(4/18 安値)を下抜くことにより強められ、NY ダウは当面、200 日 MA※を目指し下落していく展開が想定されます。

※200 日 MA…37,058 ドル(6/20)

採用銘柄にエヌビディアを持たない NY ダウ(ダウ工業株 30 種平均)は景気動向に敏感な指数です。ナスダックや S&P500 に先行して高値を付けた NY ダウは、米景気後退入りのリスクを事前に察知している可能性があります。



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

40,077ドル(5/20 高値)から 38,000ドル(5/30 安値)までは第(i)波による下落、そこから第(ii)波によるリバウンドと位置付けられます。

6月20日には一時 39,232ドルと、黄金比の節目[39,284ドル](5月高値からの下げに対する 61.8%戻り)に近づきました。

第(ii)波リバウンドは終わりつつあるようです。

38,000ドルを下抜くと、ネックラインから下放れ開始となり、第(iii)波の下げに入ったとみられます。

第(iii)波に NY ダウは、短期的にも 37,611ドル(4/18 安値)を試すでしょう。

一方 37,611ドルが維持される限り、上値追いのチャンスは引き続き残っています。

仮に 3月高値からの(b)波を「ランニング・トライアングル」とみれば、38,000ドル(5/30 安値)からはトライアングル中 d 波に位置付けられます。この場合、来る e 波の下げによっても 38,000ドルは維持され、40,077ドルを上抜くような、「最後の上昇」があるでしょう。

ナスダック



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

22 年 12 月からの上昇は、プライマリー級第④波における(B)波に位置付けられます。(B)波終了後には(C)の下落がスタートしますが、(C)波によりナスダックは 12,500～10,000 へ下落する可能性があります。

④-(B)波による上昇は[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]編成です。今年 4 月安値(15,222)からは、Y 波(②-③-④)中③波による上昇とみられます。

そして③波完了に必要な、(i)波～(v)波の五つの波動は、足元までにすべて揃っています。MACD や RSI などの指標は極端な「買われ過ぎ」を示しており、上昇トレンド終了は時間の問題とみられます。

6 月 11 日～12 日のギャップ(17,345-17,490)を早々に埋める動きがあると、上昇トレンド終了が示唆され、まずは 16,500 処への調整リスクがあります。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22 年 1 月高値 (4068) 以来のパターンは[エキスパンディット・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[エキスパンディット・フラット]の場合、(C)波の下落により、SOX 指数は 22 年 10 月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

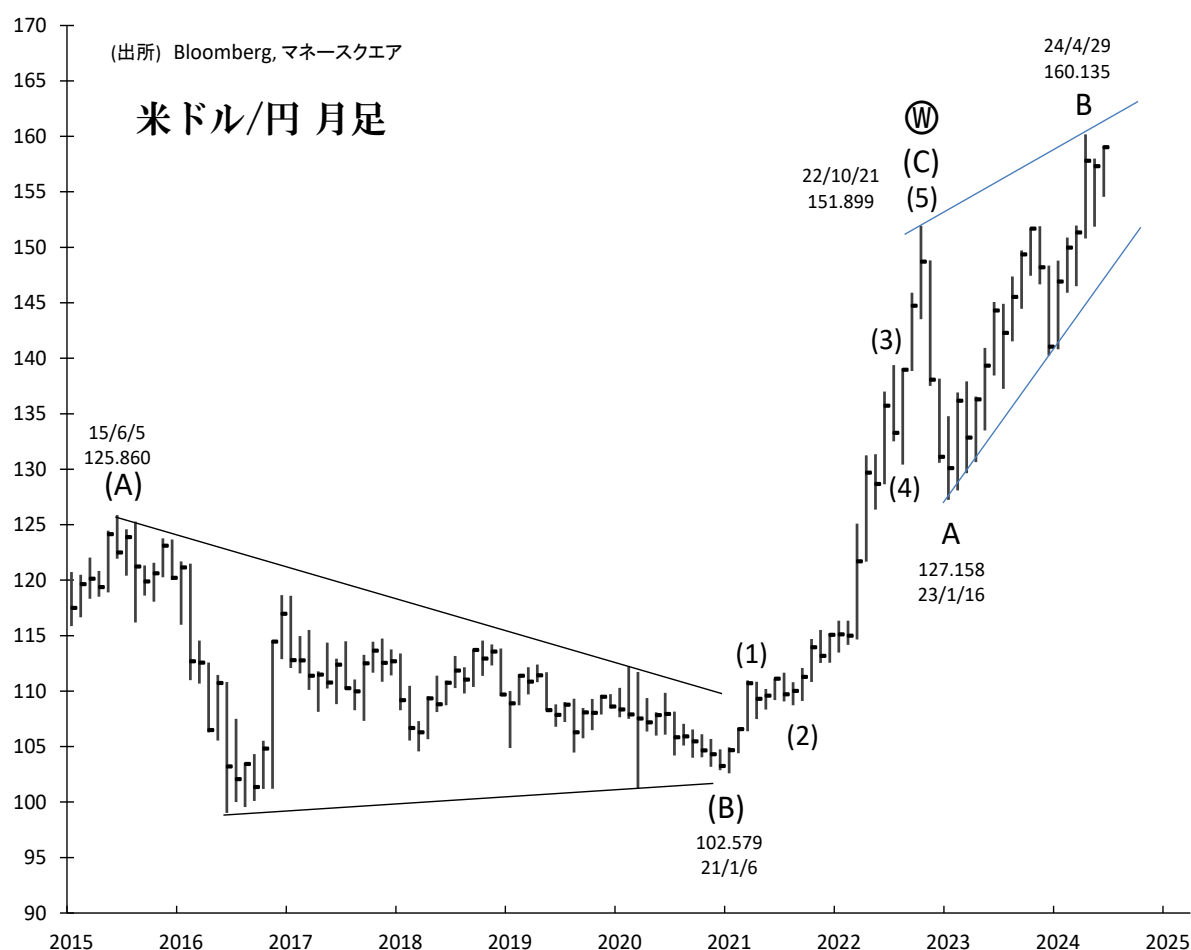
[ランニング・フラット]だと、(C)波の下落によっても 22 年 10 月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22 年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

22 年 10 月安値(2089)以来の上昇は、[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]編成となっています。そして今年 4 月安値(4287)からの上昇は、Y 波中©波の上昇に位置付けられます。

この©波を構成する必要な 5 つの波はすべて揃っています。MACD や RSI などの指標は極端に「買われ過ぎ」を示しています。SOX 指数の天井は近い、と思われます。

6 月 11 日～12 日のギャップ(5374-5452)は、上昇トレンド最後の”exhaustion gap”として注目できます。早々にギャップ埋めがあると上昇トレンド終了が暗示され、当面 5000 処への下振れリスクがあります。

米ドル/円



2011 年 10 月の 75.570 円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安Ⓢ波は、151.899 円(22/10/21)を以て終わり、そこから 2028 年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。直近の 34 年ぶりドル高・円安も基本的には、レンジ相場内の値動きの一環です。

【月足・エリオット波動分析】

22 年 10 月(151.899 円)以来、長期円安トレンドにおける中間波・Ⓢ波が進行中です。

このⓈ波は 2028 年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するとみています。

ドル/円は 4 月 29 日の 160.135 円を以て、**8 年サイクル高値※を付けた可能性**があります。

日柄面ではちょうど 34 年ぶり(フィボナッチ数)に 90 年 4 月高値(160.360 円)に「里帰り」を果たし、水準面では第(Ⅲ)波中レッサー・ディグリー第Ⅳ波の高値に一致しています。

※およそ 8 年間隔でドル/円高値が巡る『8 年サイクル』を振り返ると、過去もっとも長いサイクル期間は 106 カ月(98 年 8 月～07 年 6 月)でした。前回サイクル高値(15 年 6 月)から 106 カ月経過時点が 24 年 4 月です。**8 年サイクルのオーブ(誤差期間)を加味しても、ドル/円は 24 年 10 月までに天井を付ける見込みです。**



【週足・エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円) からの A(↘)-B(↗)-C(↘) 編成において、23 年 1 月 (127.158 円) からは B 波に位置付けられ、それは 151.899 円を超えて不規則天井 (イレギュラー・トップ) を形成しています。

160.135 円を B 波終点とみなすと、B 波の長さは A 波に対し 1.333 倍になります。B 波は A 波の 1 倍超～1.382 倍の範囲内で通常は決まりますが、今回の B 波もノーマルな範囲内に収まっています。ちなみに A 波の 1.382 倍なら B 波トップの目標値は 161.350 円です。

160.135 円 (4/29) から C 波による下落局面 (ドル安・円高) が進行中とみられます。

この C 波は **今後 140 円～135 円を試す可能性** がある、と筆者はみています。



【日足・エリオット波動分析】

23 年 1 月以来の B 波によるドル/円上昇は、[ダブル・ジグザグ]編成で 160.135 円(4/29)を以て完了したとみられます。

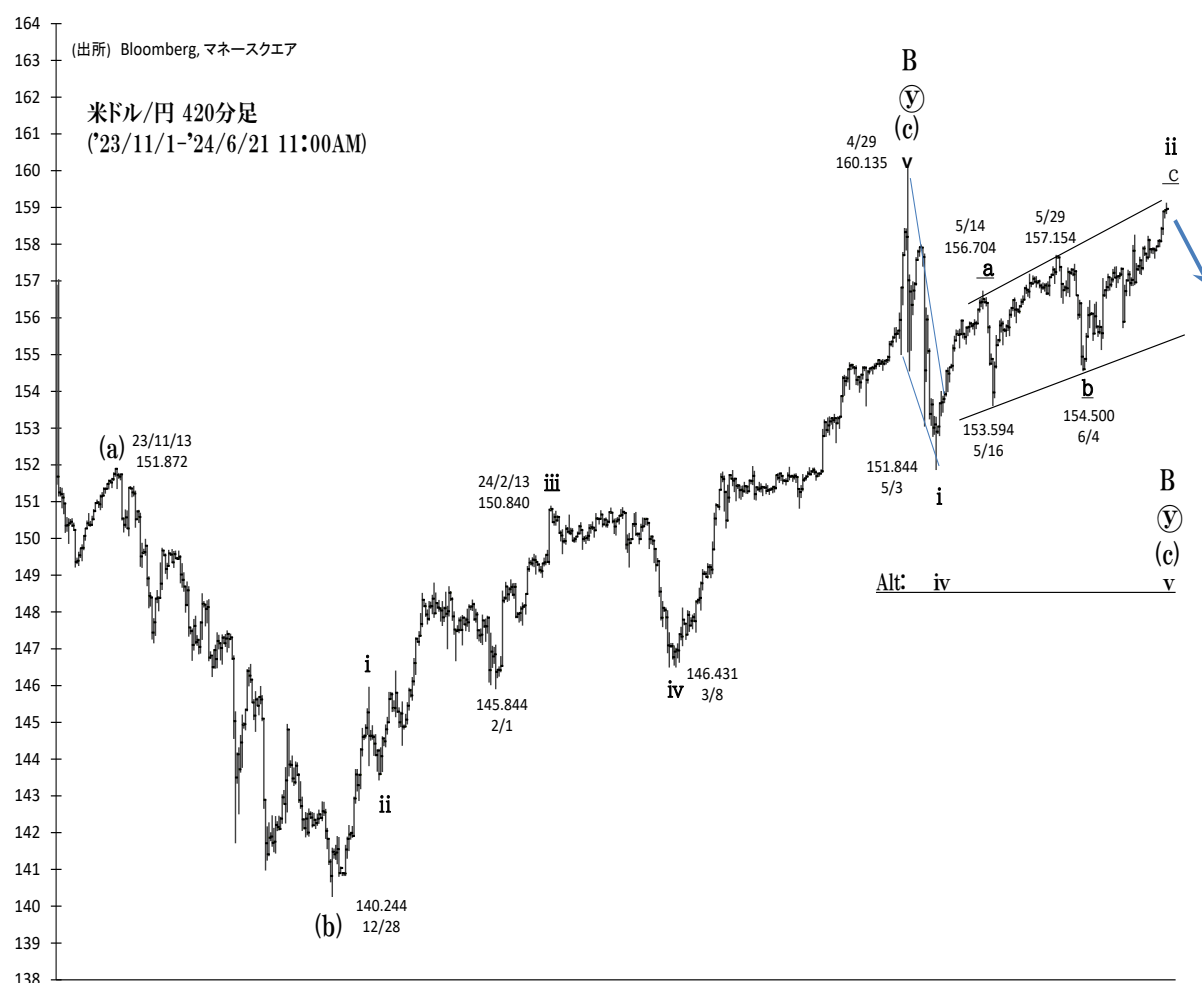
あるいは 151.844 円(5/3)からは最後のドル高・円安であり、前出の[161.350 円]を試すかもしれません。

このように短期の見通しにはオプションがありますが、筆者の大局観は変わりません。

4 月に入ってから急激なドル/円上昇(152 円⇒160 円)は、日米実質金利差を反映しておらず、専ら投機によってもたらされました。『円安プチバブル』とも呼べる過剰な円安ですが、それも今後は修正されていくと思われます。

[日米実質金利差による推計値]…148.960 円

筆者は、米長期金利の大幅な低下⇨大幅な米ドル安を見込んでおり、そうなれば日米実質金利差の縮小に沿ってドル/円は 150 円を下回っていくでしょう。



【時間足・エリオット波動分析】

160.135 円(4/29)から 151.844 円(5/3)までの下落(円高)は第 i 波(リーディング・ダイアゴナル)、そこからは第 ii 波の戻り局面に位置付けられます。

第 ii 波は[ジグザグ](a-b-c)編成、154.500 円(6/4)からは c 波によるドル高・円安とみられます。

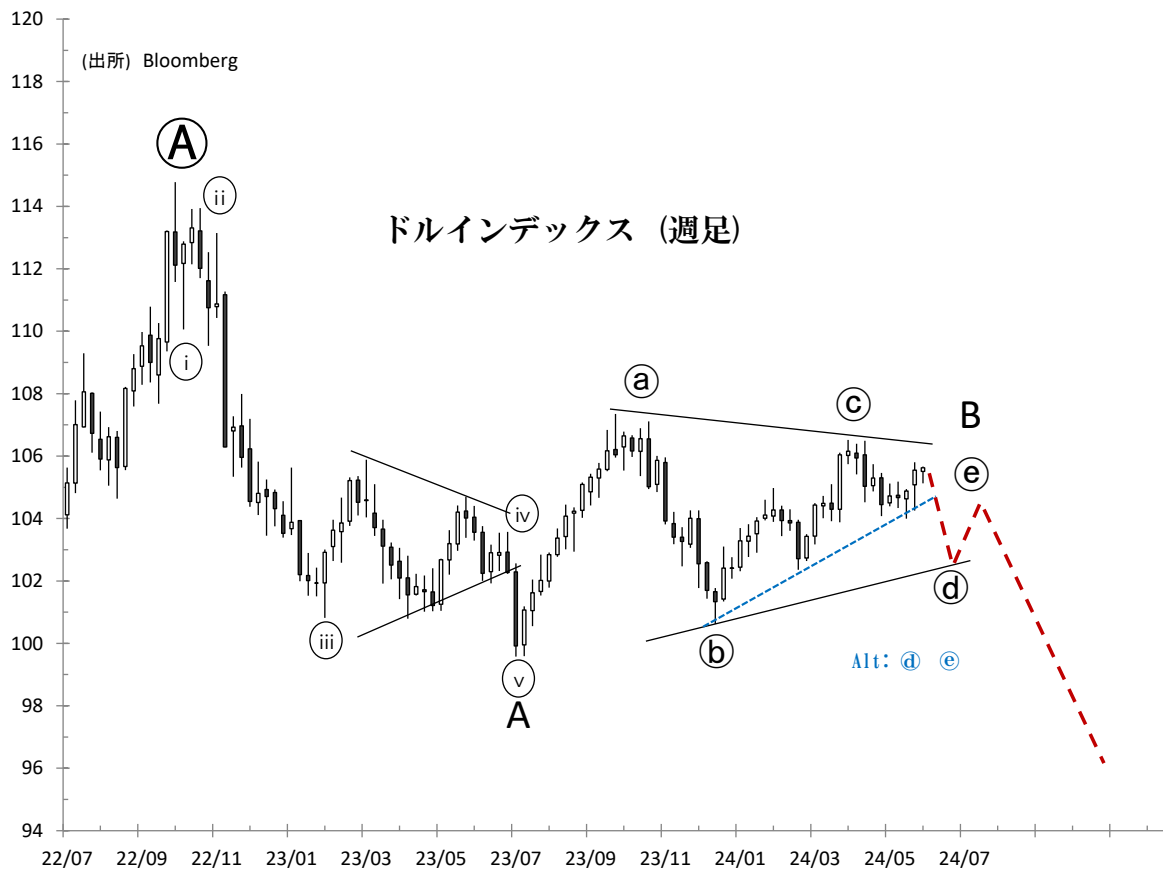
6 月 21 日には 1 ドル = 159 円を一時回復し、a 波と c 波が等しく上がる水準[159.360 円]に近づきました。

第 ii 波はまもなく完成し、来週にも第 iii 波によるドル安・円高が始まっておかしくありません。

一方、151.844 円からのドル高・円安を[エンディング・ダイアゴナル]による第 v 波と読むことも可能です。この場合、ドル/円はいったん 160.135 円を上回りますが、その動きを以て 23 年 1 月以来のドル高・円安 B 波は完成することになります。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足・エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックスは A(↘)-B(↗)-C(↘)編成による下落基調にあります。

23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、トライアングル(a-b-c-d-e)を形成中であり、足元は④波のドル安局面が進行中です。

おそらく数週間～1 カ月以内に B 波は完成し、その後に到来する C 波によって、ドル指数は 23 年安値(99.578)を大きく下回るでしょう。

なお派生的な見方として、「トライアングルはほぼ完成し、まもなく C 波によるドル安が始まる」というものがあります。この見方によると、106.517(4/16)からの④波は 103.993(6/4)で完了し—④波の下げ幅がかなり小さい印象はありますが—今はトライアングル中最後の⑤波が終わりつつある、ということになります。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。また、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
